



顔

インフラ整備を資金と知識で支援

中尾 武彦

アジア開発銀行 (ADB) 総裁

5月4～7日に第50回年次総会を横浜市で開催したADB。その第9代総裁に2013年4月から、黒田東彦総裁(現日本銀行総裁)の後任として就任。卓越した指導力を発揮し、16年11月に再任された。

重視するADBの役割は「インフラ整備の資金に加えナレッジ(知識)も提供すること」と説明。日本も、過去に世界銀行の支援を受け新幹線や高速道路を建設した際には、環境・社会配慮やプロジェクトの実行可能性調査の手法などを学んでおり「同じ役割を果たしていく」。

貸付能力を20年までに年間200億米ドルまで引き上げる予定だが、もとよりADBだけで年間1.7兆米ドルに上る域内のインフラ需要を賄うこと

はできない。このため「各国の参考となるような先進的なプロジェクトを支援しモデルを示す」ことに重点を置く。日本政府は「質の高いインフラ整備」を提唱しているが、ADBもより高度な技術、クリーンな技術を推進している。

ADBには「資金支援を軸にアジアの友好や協力関係を発展させてきた自負がある。このスピリットをさらに強化していきたい」と力を込める。

(関連:第50回年次総会レポートは82～83頁)

中尾 武彦(なかお たけひこ)
1956年3月5日生、大阪府出身
78年3月 東京大学経済学部卒業、同年4月 大蔵省入省
2011年8月 財務省財務官
13年4月 アジア開発銀行総裁